

## ● 中神熊野神社 獅子舞(春祈禱)

東京都指定の無形民俗文化財「中神の獅子舞」による「春祈禱」が、4月16日(宵宮)福厳寺・日枝神社で、17日(本宮)中神熊野神社で行なわれた。17日は熊野神社に張り出されたテントが吹き飛ばされるほどの強風に見舞われたが、お昼頃には幾分だが風が弱まり、逆に強い日差しと共に気温が20度を超え始めた頃に天気雨が降り出し、かつてない複雑な天候となった。

春祈禱の開催日にかぎりここ数年、好天気に恵まれたことが無い。

よく考えてみれば、ご先祖様は古来より、どのような劣悪な自然環境でも、これを真摯に受けとめていたからこそ、五穀豊穡・家内安全・無病息災を祈禱されていたということではないだろうか。

演目「花懸り」本来は花笠をかぶる ささら摺りの周りで獅子三頭が膝まづきながら、流暢な動きで演舞(狂い)する。しかし強風のため素顔の花笠となる。晴れわたる太陽の下、衣装の映えるささら摺りと三頭の獅子が艶やかで優雅にみえた。



▲花懸り 山田文生君 森田裕登君 西野岳人君

演目「三拍子」三拍子といっても楽譜的に三拍子という意味ではなく、笛・太鼓の軽快なリズムに合わせて心地よいテンポで獅子が軽快に演舞(狂い)するところから三拍子という名称になったと思われる。現代と変わらない、アップテンポのリズムが江戸時代から存在していたとは驚きでもある。役者も心地よく演舞しているのが伺える楽しい演目である。



▲長年に渡り、「へい追い」を演じる、谷澤和夫さん



▲帯狂い 世良田大雅君 西上慧君



▲森田真登君

演目「帯狂い」において、今回獅子舞デビューを果たしたのが、森田真登君。(小学6年生)まだ小学生なので、棒使いも演じて大活躍だった。中学3年生の兄、裕登君と共に獅子舞に熱心に取り組んでいる。



▲三拍子 高山大樹君 植田光生君 中澤大二郎君

演目「雌獅子隠し」の物語は、いつも一緒に行動している雌獅子が、姿を消す、雄の二頭が雌獅子を探し狼狽する何とも滑稽な演舞である。ここに「へい追い」いわゆる「ひょっこ」が登場し、探しまわる獅子を巧みにからかってみせる。しばらくすると、獅子が本気で怒りだし噛みつきにかかる。へい追いは、びっくり仰天のアクションとなる。この役を見事にこなすのが、「谷澤和夫」さん、長年にわたり獅子舞保存会に貢献されている方だ。そして地域には、なくてはならない存在である。さて、中神の獅子舞において、今回の取材では4演目をクローズアップした。春祈禱を鑑賞する際、参考にさせていただけたらと思う。